

令和5年度 地区研修園 研修報告

≪北部地区≫

学校法人アソカ学園 百花幼稚園

◎研修主題

「創造性豊かな表現と主体的な子どもの姿を育む」

◎設定理由

幼稚園において育みたい資質・能力

①「知識及び技能の基礎」

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする。

②「思考力、判断力、表現力等の基礎」

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。

③「学びに向かう力、人間性等」

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

上記について、絵画活動・制作活動を取り組む課程の中でどの項目も育まれる要素があると感じた。また、日頃の絵画活動や制作活動などを行う中で、子どもたちが伸び伸びと活動に取り組む姿や、それぞれの個性が表現されている様子がたくさん見られていた。そのような姿がなぜ見られるのか、そして、改めて絵画活動や制作活動を通して、子どもたちの「創造性豊かな表現と主体的な子どもの姿を育む」ために、保育者に必要な配慮や援助について考えたいと思い、本テーマを設定した。

※6月頃の絵画

<年少児>



<年中児>



<年長児>



◎研修の進め方

- * 職員会議の中で『今日の幼稚園』と題して、日々の遊びや活動の中で子どもたちの姿やつぶやきなどから気付いたことや考えたこと、感じたことなどを話す時間を研修以前から設けており、引き続き行う。
→子ども一人一人の思いや考えを知り、「その子らしさ」を理解する。
- * 保育の様子（環境構成や子どもたちの姿）を写真や動画で撮影し、保育者の意図や子どもたちの様子から感じたことなどを話し、保育の振り返りをすると共に、気になったことは質問するといった話し合いを行う。
- * 作品展前日1月19日（金）を公開研修とし、他園の先生方と意見交換を行う。
- * 公開研修と作品展を終えて、振り返りを行う。

◎実践報告

【タブレットを使用し、保育の様子を紹介】

～『今日の幼稚園』にて～

＜段ボールに水を付けた筆で絵を描く

子どもたちの様子＞

- ・テラスに板段ボールとゼリーカップ、絵筆を用意した。
- ・準備の段階で、子どもたちからは「何やるの？」と興味を持っている様子があった。
- ・「水なのに絵が描けるのなんで？」と言いながら、友だちと一緒に描く子、一人で黙々と描く子などそれぞれの姿の中で、思い思いに絵を描き始めた子どもたち。
- ・最初に描いた絵が消える不思議さを感じながら、「もっと描こう！」と主体的な姿が見られた。

＜職員の中で出た感想＞

- ・外で行っているということもあり、子どもたちが伸び伸びと取り組んでいて楽しそう。
- ・不思議だからもっとやってみたいと思えるのかも。
- ・子どもたちが「やってみたい」と主体的に取り組んでいる姿が良い。
- ・今まで考えたことがなかったけど、自分のクラスでもやってみたい。

【1月19日（金）：公開研修～作品展の前日～】

＜作品展の様子を浜私幼の先生方に見に来ていただいた＞

※16園から60名の先生方が参加してくださいました。

- ・各教室で子どもたちの作品・活動風景の写真の展示を見ながら、活動の内容や子どもたちの姿についてお話をさせていただき、意見交換を行った。



<研修内で出た質問>

- ・どのような道具を使って、どのように行ったか。
- ・絵画活動や立体制作には何日かけて行なったか。
 - 年少児：粘土は3日間で色々な導入方法で飽きることなく取り組めていた。
 - 年中児：立体制作は3日間で段階を踏んで取り組んでいった。
 - 年長児：立体制作は1週間かけて“何を作るか”の話し合いから始め、グループ決めをし、制作を行っていった。
- ・年中児：絵の具は何色出しているのか。
 - 5色くらい（5色の中から自分で混ぜて色を作っている。）
- ・年中児：セロハンテープやボンドの使い分けはどのようにしているのか。
 - それぞれ1・2学期で経験しており、どちらが使いやすいか用途に応じて自分で考えながら使っていた。
- ・年長児：自由画はテーマがあるのか、それとも自由なのか。
 - 3、4回くらい絵画活動の時間を設け、好きな絵を描いたり、子どもたちのイメージしやすいテーマで描いたりした。
- ・年長児：共同画や立体制作の中でトラブルはないのか。
 - 共同制作では紙の向きや配色について、立体制作ではそれぞれのイメージしたものが異なり、友だちとトラブルになることもあったが、子どもたちの中で話し合い、解決をしていた。

<アンケートより>

- ・絵画では子どもが描きたいサイズの画用紙を選んでいるとの事で全員が同じではなく、描く以前の段階から主体性を感じた。
- ・素材選びの様子（写真）から、子どもたちが楽しそうに選んでいる姿、真剣に選んでいる姿を見ると、夢中になって取り組んでいるのだと感じた。
- ・年少から様々な技法を使って絵画活動を経験している積み重ねが年中、年長の絵画や制作から伝わってきた。「豊かな表現」ができるようテーマを絞りすぎないなど先生の工夫しているところが良かった。
- ・絵画だけではなく、粘土、廃材、共同制作では、それぞれの年齢に合った活動であるため、子どもたちも自信をもって取り組めたのではないかと思う。

◎終わりに

～振り返りより～

今回の研修を通して、「創造性豊かな表現と主体的な子どもの姿を育む」には、環境が大きく関係していると改めて感じた。子どもたちがどのような物事に興味をもっているのか、どのようなことをしたら好奇心や探求心をもって取り組めるのか、日々の生活の中で保育者が気付いていくことが大切だと再確認できた。また、子どもたちの表現した物事を肯定的に捉えていくこと、今まで経験してきた物事を取り入れていくことで自信となり、伸び伸びと表現する姿へと繋がっていると実感した。保育者は上記のことを意識していくと共に、教材研究や環境設定などを考慮していく必要があることを、今後に生かしていきたい。

最後に、このような研修の機会をいただいたこと、ならびに、ご協力・ご参加くださった浜私幼の先生方に御礼申し上げます。ありがとうございました。